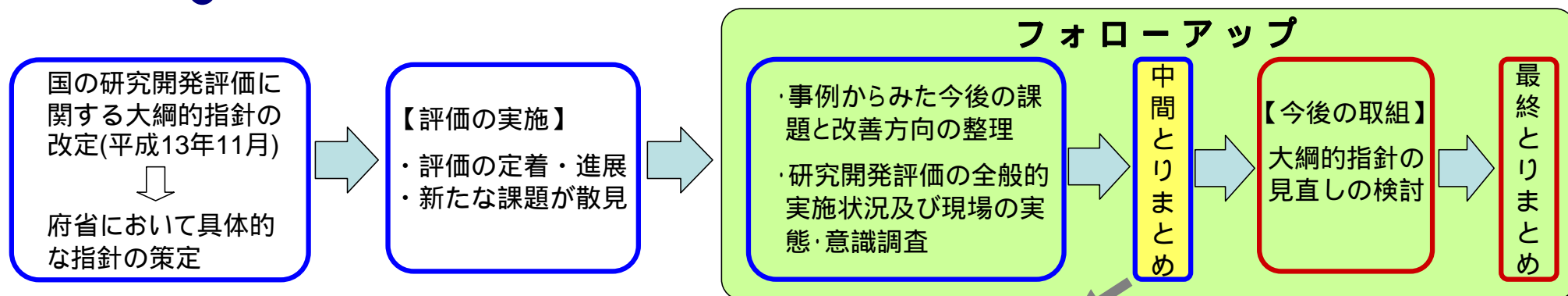


「国の研究開発評価に関する大綱的指針」のフォローアップについて (中間とりまとめ)【概要】



中間とりまとめのポイント

研究開発評価の全般的実施状況

府省・研究開発機関別の評価の実施状況

- ・ 研究開発関係省庁 / 評価に対する取組が着実に根付きつつあるが、施策・政策の評価、追跡評価の実績が少ない。
 今後は、施策の評価等を活用したより良い政策・施策の形成に期待
- ・ 研究開発機関等 / 取組状況は機関によってばらつきがある。施策の評価、追跡評価の実績が少ない。
 評価の進展状況に応じ、評価システムの再構築等、一層の取組に期待
- ・ 大学等 / 評価に対する意識は高まりつつあるものの、これまでの取組は必ずしも十分とは言えない。
 一層の意識の向上、取組の充実や評価システムの構築等に期待
- ・ 総合科学技術会議 / 国家的に重要な研究開発の評価を実施。
 上位の科学技術政策や施策を対象とした評価等を充実

評価の全般的進展状況及び問題点

- ・ 進展 / 適切な緊張感と成果重視の考え方が生まれつつある。社会・経済といった視点から研究開発活動の適否が見直されるようになってきた。
- ・ 問題点 / 評価のための研究者の作業負担が過重と受け取られる場合や、評価が形式化したり十分活用されない場合もみられる。
 信頼性のある評価実施のために必要な調査・分析や評価のための適切な手法が未だ十分現場に定着していない。

研究開発評価の今後の課題と改善方向

創造への挑戦を励まし成果を問う評価

評価を行うことが却って研究者の挑戦を妨げたり萎縮させる原因になっている面がかなり見受けられることから、今後は成果を問うことだけではなく挑戦を励ます面も重要

世界水準の信頼できる評価

信頼性の高い評価を行うために必要な手法、人材が不足していることから、評価の高度化を目指し、評価技術や評価者の充実などのための具体的な体制整備が必要

活用され変革を促す評価

評価が研究開発の継続・見直しや資源配分、よりよい政策・施策の形成等に活用されるように徹底していくことが必要

今後の取組

今後の我が国の研究開発に関する評価システムの更なる発展を図るため、今後、年度末を目途に、基本政策専門調査会で行われる関連の調査・検討も勘案しつつ、上記の「研究開発評価の今後の課題と改善方向」等に沿った現行の大綱的指針の見直し等について評価専門調査会において具体的な検討を行うことが適当